

## エゼキエル書47章1-5節 「神からの水」

### 1A 神殿からの水

1B エデンの園

2B 新天新地

3B 豊かさ癒し

### 2A 罪による渇き

1B 罪による茨

2B 罪による枯渇

3B キリストの茨と渇き

### 3A 心から溢れる川

1B 自然と体

2B イエスの与えられる水

3B 信仰による御霊の満ち

## 本文

エゼキエル書 47 章を開いてください。私たちはついに、エゼキエル書の最後の学びに入ります。44 章から一気に 48 章まで読みたいと思います。今朝は、47 章 1-5 節に注目したいと思います。

1 彼は私を神殿の入口に連れ戻した。見ると、水が神殿の敷居の下から東のほうへと流れ出ていた。神殿が東に向いていたからである。その水は祭壇の南、宮の右側の下から流れていた。2 ついで、彼は私を北の門から連れ出し、外を回らせ、東向きの外の門に行かせた。見ると、水は右側から流れ出ていた。3 その人は手に測りなわを持って東へ出て行き、一千キュビトを測り、私にその水を渡らせると、それは足首までであった。4 彼がさらに一千キュビトを測り、私にその水を渡らせると、水はひざに達した。彼がさらに一千キュビトを測り、私を渡らせると、水は腰に達した。5 彼がさらに一千キュビトを測ると、渡ることでできない川となった。水かさは増し、泳げるほどの水となり、渡ることでできない川となった。

私たちは先週、エゼキエルが神の国の中における神殿の幻を、案内されたところを読みました。今日もその続きを読みますが、そこにおける案内をいろいろ受けた後に、主からの使いが彼を神殿の入口まで連れて行きました。本堂に入る敷居の下から、東のほうに水が流れていたのです。これは、泉になっているとヨエル書 3 章 18 節にあります。湧き水になっているんですね。そして、宮の右側から出ていて、それから祭壇の右側、すなわち南側へと流れ、そして東向きの外の門まで連れて行きました。するとその右側からその水が流れ出ていたのです。神殿の敷地を越えて流れ出ていたのです。それから、一千キュビト、すなわち 5.3km ほど計ったら、なんと足首までの深さになっていました。さらに一千キュビト行ったら、膝にまで達する深さになっていました。さらに一千キュビト測ったら、

腰にまでなっていました。そしてさらに一千キュビト行くと、泳げるほどの、渡ることのできない川となっていました。

普通、私たちが川を見る時に、上流のちよろちよろとした川から、下流は大きな河川となっているので有り得る風景ですが、けれども、他の支流があるわけではないのに、神殿から出て来る水だけなのに、なんでこうなるのだろうか？と思います。なぜなら、これは物理的な川だけでなく、神の御霊に属する川であり、霊的な原則も表している川だからです。つまり、初めは僅かだったのが、それが溢れ流れるようになるというのが、神が私たちに下さった霊的豊かさだからです。

## 1A 神殿からの水

### 1B エデンの園

私たちは先週、「神は遠くから私たちを眺めているのではなく、近くに来て、共に住んで、ご自分の栄光を表したい」と願っておられることを見ました。その初めは、エデンの園です。そのエデンの園において、私たちは四つの川が流れていたことを知っています。それゆえに、多くの木が生えており、もう食べ頃のような、美味しそうな実も結ばれていました。その中央に、いのちの木と善悪の知識の木がありました。エデンがその四つの川の源になっていることを、教えています。「創世 2:10 一つの川が、この園を潤すため、エデンから出ており、そこから分かれて、四つの源となっていた。」一つがピシオンで、アラビア半島に流れて行ったのでしょう、そこは良質な金が出ました。もう一つはギホンで、クシュなどアフリカへ流れていきました。そしてヒデケルという川はアシュルの東、すなわちイランのほうに流れています。そして第四がユーフラテス川です。エデンはユーフラテス川の上流辺りにあったのでしょうか？いずれにしても、神の住まわれる、神が人と共に住まわれるエデンから、四つの大川が流れていました。そして、その川が木々のような生命を与え、また実のような豊かさを与えていたのです。神を神とするところから、生ける川が流れるということです。

### 2B 新天新地

そしてこの、エゼキエルが見た、地上の神の国における生ける水があります。神殿から流れたこの川は、死海へと流れていきます。そして、両岸には非常に多くの木が生えており、あらゆる果実が生長しています。また葉は人を癒す効果があるということです。そして何よりも、死海の中にその川は流れ込み、水が死んでいたのが生き、非常に多くの魚がいるようになります。

黙示録には、この国が千年間のものであることを教えています。その後、サタンが最後のあがきをして、彼が裁かれ、地獄の火に送り込まれると、最後の審判があります。そして新しい地と新しい天が造られ、神は新しいエルサレムもお与えになります。天から降りてくる天のエルサレムです。その都からも、生ける水が中央から流れます。「22:1-2 御使いはまた、私に水晶のように光るいのちの水の川を見せた。それは神と小羊との御座から出て、都の大通りの中央を流れていた。川の両岸には、いのちの木があって、十二種の実がなり、毎月、実ができた。また、その木の葉は諸国の民をいやした。」ここでも同じですね。神と小羊の御座から川が流れています。主が王として、御座に着いている

からこそ、そこから命の水が流れるということですね。そして、そこから命の木が生えていて、実を食べることができるし、葉は癒しの効果があります。

### 3B 豊かさ癒し

主は、実を多く結ぶような豊かさと、人が健全に生きていることを願われています。イエス様は、「わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。(ヨハネ 10:10)」と言われました。そして、多くの実を結び(15:5)、実が残るためなのだと言われています。「15:16 あなたがたがわたしを選んだわけではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父があなたがたにお与えになるためです。」ですから、実を多く結ぶことを主は願われているのですが、ここで大事なのはこの世において、私たちが要求されているような成果を出すということではありません。ノルマが課せられて、業績を出さないといけないということではありません。実を結ぶというのは、あくまでも命の営みです。ですから、命の源である主ご自身につながっていることによって、初めて結ばせることのできるものです。私たちは、アダムからの罪の性質を引き継いでいますから、どうしても「行ない」に目が留まります。自分で自分の欠けたところを何とかして補わないといけなく、焦燥感に駆られています。けれども、いかに命につながっているか、という関係から、たったそれが僅かな力でも、そこから三十倍、六十倍、百倍の実を結ぶのです。

偉大なことをする人は、そんな多くのことを行なっていません。いや、忠実に主に言われたことを単純にしている人が、多くのことをしています。例えばピリー・グラハム。彼は若い時に、こう教えられました。「十五分、主に語りなさい。十五分、主から聞きなさい。そして十五分、人にイエス様のことを伝えなさい。」祈って、聖書を読んで、そして伝道することです。とても単純であり、そこに留まって、忠実であったので、主が彼を用いて、キリスト教が始まって以来、数的には最大の信仰告白へ導いた伝道者となりました。しかし、本人はへりくだっています。本質においては、たった一人の息子を、主を恐れる神の人へと育てる母親と、何も変わることがないのです。本質は命であり、つながりであり、そこから多くの実が結ばれます。

そして人は健全であるように、神は造られました。ヨハネ第三の手紙 2 節に、「愛する者よ。あなたが、たましいに幸いを得ているようにすべての点でも幸いを得、また健康であるように祈ります。」とあります。これは、身体の健康のことだけを話しているではありません。健康というよりも、健全と言ったほうがよいでしょう。バランス、均衡のとれた生活のことです。もし肉体が健康であっても、健康食や肉体の訓練ばかりに囚われて、バランスを崩していたら全く意味がありません。「健康にならないといけない」という事に拘ると、これまた「健康病」と名付けてもよい心の病にかかります。イエス様が、テモテへの手紙には、パウロは、自分の教えている福音が、健全な教えであり、人を敬虔に至らせるものであることを何度も教えています。イエス様こそが、最も健全な方、バランスのある方でした。

興味深いのは、「癒す」という言葉が新しいエルサレムで使われていることについて、「なぜ癒される必要があるの？」という疑問が出て来ることです。「その木の葉は諸国の民をいやした。」とあります。癒しについて、私たちの考え自体が歪んでしまっています。西洋医学よりも、漢方や鍼灸などの東洋医学のことを考えればよいでしょう。そこにあるのは、体全体のバランスです。体全体の均等状態が崩れるから、病になるという考えです。それで、部分的な対処療法ではなく、全体のバランスを保つことで体を健康にするという考えです。それがここで使われている、「いやした」という言葉の背景です。私たちは何も悪いところのない完全な状態になることが、癒しだと思っています。それこそが、病の元凶であります。エバは、神のように完全になりたいと思ったから、禁断の実を食べたのです。そうではなく、絶えず自分は神を必要としており、神を根源としており、この方と一つ交わっていることによって、そこにある幸せを得ているその過程が癒しなのです。まさに、水に例えることができます、流れている水を飲むのか、その水源の近いところに行くのか、それとも、大きな貯水槽を作って、そこに溜めるのを目的にしてしまうのか？自ずと違いが分かるでしょう。

## 2A 罪による渇き

それでは、渇いてしまう、乾燥し、干からびる、砂漠のようになるというのは、どういうことでしょうか？霊的には、それは罪を犯したあとの状態であります。

### 1B 罪による茨

エデンの園で、アダムが罪を犯しました。罪を犯したことで、土地から茨が生えると主は言われました。「創世 3:18 土地は、あなたのために、いばらとあざみを生えさせ、あなたは、野の草を食べなければならない。」茨やあざみは、土地が乾燥しているからそうなるのであって、エデンにあるような潤いが無くなったことを意味します。そして、神の律法には、何度も何度も、イスラエルが罪を犯せば、不従順であれば、土地が乾燥する、鉄のように堅くなってしまふことを話しています。「申命 28:23-24 またあなたの頭の上の天は青銅となり、あなたの下の地は鉄となる。主は、あなたの地の雨をほこりとされる。それで砂ほこりが天から降って来て、ついにはあなたは根絶やしにされる。」

### 2B 罪による枯渇

そして罪による茨や荒地は、良心においてもそのようになっていきます。ダビデがバテシェバと姦淫の罪を犯し、その夫ウリヤを殺した後、バテシェバを自分の妻にしました。ウリヤはペリシテ人との戦いで敗れたとされていますが、至近距離に近づかせたのはダビデの仕業です。死んだ兵士のやもめを王が娶るということは、むしろ栄誉なことであり、人々からは何も問題もないとされていました。ところが、ダビデの心は違いました。「詩篇 32:3-4 私は黙っていたときには、一日中、うめいて、私の骨々は疲れ果てました。それは、御手が昼も夜も私の上に重くのしかかり、私の骨髓は、夏のひでりでかわききったからです。セラ」そしてナタンによって罪の指摘を受け、彼は主に対して罪を犯したと告白しました。それで、ナタンも「主は罪を赦された」と宣言します。「幸いなことよ。そのそむきを赦され、罪をおおわれた人は。」とダビデは感嘆しました。

バプテスマのヨハネの説教を思い出してください。罪を犯して、悔い改めない者たちに対する裁きは、全く水気のない中で、火に燃やされるというものでした。「マタイ 3:12 手に箕を持っておられ、ご自分の脱穀場をすみずみまできよめられます。麦を倉に納め、殻を消えない火で焼き尽くされます。」そして、使徒ペテロは教会の中に忍び込む偽教師が、肉欲や好色によって人々を誘惑しているということをやっていて、このような者たちが神の裁きを受けることを次のように述べています。「2ペテロ 2:17 この人たちは、水のない泉、突風に吹き払われる霧です。彼らに用意されているものは、まっ暗なやみです。」

### 3B キリストの茨と渇き

それゆえ、イエス様が私たちの罪のために死なれた時に、罪によってもたらされる茨や渇きを体験されました。主がゲッセマネの園で祈られたのは、神の怒りの杯を飲まなければいけないという父の御心についてでありました。それで、その祈りによって、「苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた。汗が血のしずくのように地に落ちた。(ルカ 22:44)」これは、血汗症と呼ばれます。死の危機に瀕する時に、極度のストレスによって汗線の毛細血管が破れる現象です。ここでイエス様の体内の水分が多く出て来ました。

そして、イエス様は鞭打たれます。革の鞭の中には、鉄玉や小さな骨、ガラスの破片などが入れられていますから、それで体を打たれると、当然ながれ裂傷が起こり、血管がむき出しになり、筋肉や腱、内臓までがむき出しになることさえあります。とてつもない痛みと、血液が大量に失われ、体内で異常な喉の渇きを覚えます。十字架に付けられたキリストの様子を、ダビデは預言しました。「詩篇 22:14-15 私は、水のように注ぎ出され、私の骨々はみな、はずれました。私の心は、ろうのようになり、私の内で溶けました。私の力は、土器のかけらのように、かわききり、私の舌は、上あごにくっついていて、あなたは私を死のちりの上に置かれます。」そしてイエス様は、確かに十字架の上で、「わたしは渇く。」と言われました(ヨハネ 19:28)。

茨についても、イエス様はピラトによって十字架の判決が出た時に、ローマ兵によって、いばらの冠を頭にかぶされました。そうです、アダムが罪を犯したので主が土地を呪うと言われた、その茨をご自分の身に受けられたのです。このようにして、イエス様が私たちの罪から来る渇きを、身代わりに受け取られました。

### 3A 心から溢れる川

#### 1B 自然と体

ですから、罪の赦された魂、良心の清めをその流された血によって受けた魂は、神の命の水による潤いを受けることができます。これまで見てきたように、私たちの体と神が世界を造られた被造物とか、同じ原則で動いているのが分かるでしょう。まるで、世界で起こっていることが小宇宙のように人の中でも起こっているのです。罪を犯したことで、天から雨が降らず、荒地になり、茨が生えるようになったのと同じように、私たちの体は罪によって、心に強い渇き、骨々が干からびるような渇きを覚え



ます。そして、罪が取り除かれることによって、その砕かれた、悔い改めた魂に、主はいのちの御霊を注いでくださって、また生き生きとするのですが、それが世界においても同じであり、御国においては神殿の御座から流れる水によって、イスラエルの地が潤うのです。

## 2B イエスの与えられる水

イエス様は、ご自分を信じて、受け入れる者は、内から水が与えられることを話されました。サマリヤの女に対して、イエス様が言われました。「ヨハネ 4:13-14 この水を飲む者はだれでも、また渇きません。しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渇くことはありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。」すばらしいのは、内に泉ができるということです。外にある井戸は、いつまでも汲みにいかなければいけません、内蔵の泉があれば、いつまでも心から溢れ出て来ますね。これは、イエスが私たちの中で主となっておられる時、この方が私において王座に着いておられる時、ちょうど神殿から川が出て来る泉のように、どんどん出てきて溢れ出るのです。イエス様こそが、私たちの命であり、生ける水の発生源なのです。

そして、イエス様はただ出て来るだけでなく、勢いよくほとばしり出ることを約束されました。「さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立って、大声で言われた。「ヨハネ 7:37-39 だれでも渇いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。」これは、イエスを信じる者が後になってから受ける御霊のことを言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったため、御霊はまだ注がれていなかったからである。」この流れ出る、という言葉は、鉄砲水のことを言い表しています。荒野において、一年に一回、二回だけ降水があります。その時に、涸れた川になっていたところは、単に水が流れるのではなく、鉄砲水になります。なぜかイスラエルの沙漠で、毎年、溺死による死者が出るのだそうです。冬季に、沙漠をハイキングする人がその事故に遭います。ですから、信じる者には心から、御霊によって、干からびたようになった心に、鉄砲水のような水が溢れ流れ出て行くのです。

## 3B 信仰による御霊の満たし

イエス様はここで、「わたしを信じる者は」と言われました。イエス様を信じる者が、御霊の注ぎを受けることができます。私たちは何かをしなければいけないのではないのです。神を信じる、イエス様を信じる、この方がおられること、この方が働いておられることを、目で認めることができなくても信じるのです。その信仰を働かせると、御霊が力強く私たちに働いてくださいます。そして、溢れるように水を流してくださいます。エゼキエルが、足から腰へ、腰から溺れる程の水かさへ、川がどんどん深くなっていったのを見ましたが、聖霊の働きも次第に大きくなります。これまで自分が牽引して動かしていた自分の人生が、聖霊が牽引して動かす人生へと変えられます。川が深くて、足が付けなくなるように、自分ではなく、神が自分を動かしてくださる人生です。